

# いわき農林水産ニュース



ふくしまから  
はじめよう。

Future From Fukushima.

ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

11月号 発行 平成28年11月29日

## 「いわきの今を見に行く！モニターバスツアー」を実施しました

10月22日（土）、29日（土）、いわき地方振興局、水産事務所、水産試験場、いわき農林事務所の4機関が共同で「いわきの今を見に行く！モニターバスツアー」を実施しました。このバスツアーは首都圏大学生を対象とし、福島県の農林水産物の安全・安心の取組や復興状況等を直に見てもらうことで、正確な情報の発信や風評の払拭につなげていくことを目的としており、今年度で4年目になります。

まず、サンシャイントマトを生産している(有)とまとランドいわきにおいて施設見学や原発事故後の風評払拭への取組等の説明を受け、トマトの摘み取り体験をしました。

その後、米の全量全袋検査をしているJA福島さくら第六営農経済センターの見学をした後、いわき菌床椎茸組合において菌床椎茸の生産施設の見学、風評払拭や復興の取り組み、放射線に関する基礎講座及び県産農林水産物のモニタリング検査状況についての説明を受けました。

最後は、津波で被災した岩間地区の復旧・復興の様子を見ながら帰路につきましたが、参加者からは、「福島県産農産物は他県産よりも安全だと思う」、「帰宅したら福島のことを友人や家族に教えたい」といった意見がありました。

（企画部）



（(有)とまとランドいわきにおいて集合写真）



（放射線に関する基礎講座を受講する様子）

## 福島県森林組合連合会良質材展示会が開催されました

10月17日（月）、遠野町のいわき木材流通センターにおいて、第19回福島県森林組合連合会良質材展示会が開催されました。

この展示会は、生産技術の改善向上と木材の需給の安定に寄与することなどを目的に毎年開催されているもので、今年は96点の良質材が出品されました。この中には、林野庁長官賞受賞などの表彰を受けた8点も含まれていました（いわき管内では県知事賞など5点が受賞）。

当日は、展示会と併せて記念市が行われ、良質材を目当てに数多くの人を訪れ、展示会出品材は完売となりました。

センターでは、今後の好天と秋に増える需要、森林整備の促進による出材の増に期待していました。

（森林林業部）



（福島県知事賞 ㈱磐城造林）



（関東森林管理局長賞 ㈱豊田林業）

## 釣り試験操業が始まりました

10月19日（水）、9月の県下漁業協同組合長会議で試験操業計画が承認され、これに基づく初水揚げがありました。この日はメジ（小型のクロマグロ）、マダラ、ヒラメ、カツオなど約380kgの水揚げがあり、県内外の消費地市場に出荷されました。

釣りでの漁獲魚は網を使わないことや、針にかかってすぐに船上にあげることなどから、高鮮度の魚を水揚げすることができます。品質の高い魚を出荷することでいわき産水産物のブランド回復につながることを期待されます。

（水産事務所）



(メジ (小型のマグロ))



(マダラ)

## 「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催しました

11月7日(月)、いわき市小名浜のいわき・ら・ら・ミュウ館内において、県産農林水産物の美味しさや安全性をPRする第3回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催しました。

県内外からの来館者に対して、県産農林水産物の購入状況や購入意欲に関するアンケート調査を実施し、アンケート調査に協力した方に、いわき市産の新米コシヒカリ及び天のつぶのセットを150個配布しました。

他県からの来館者も多くいましたが、「福島県産のものは普段から買っている」「福島県産だからと言って、特に気にしていない」といった意見の他に「放射性物質検査等により安全であることは理解しているが、何となく不安を感じる」などの声も聞かれました。

7月にアクアマリンふくしまで実施した第1回目のキャンペーンと同様にアンケート回答者の半数以上が他県からの来館者でしたが、今回も県産農林水産物を「購入したくない」等のネガティブな回答はほとんどありませんでした。

(企画部)



(キャンペーンの様子)



(おいしい県産農産物を食べて応援しよう！)

## 東北農村青年会議福島大会がホテルハワイアンズで開催されました

11月1日（火）、2日（水）の2日間、ホテルハワイアンズにおいて第47回東北農村青年会議福島大会が開催されました。本大会は日頃の農業経営や農村生活で得た知識や新たな技術習得に取組んだことで得られた成果を発表することを目的で開催されています。東北6県の県大会を勝ち抜いた若手農業者はもとより、6次化商品の開発を行った磐城農業高校等の学生による成果発表や、参加者による活発な意見交換も行われました。

いわき市で開催されたことを受け、いわき農業青年クラブは開催準備や運営に協力するとともに、2日目の現地視察では、いわき青年クラブ会員の農場や米全量全袋検査が行われている検査場を案内しました。

参加者からは、「福島県産の農作物はこんなに厳しい検査を受けていることに驚いた。福島県産の農産物を応援したい」という感想がありました。クラブ会員にとっては、他県の農業者と交流し、刺激を受ける良い機会となりました。（農業振興普及部）



（意見発表の様子）



（現地視察（米全量全袋検査））

## 日本なし新規栽培セミナーが開催されました



（選果場での指導支援体制確認）

11月2日（木）、JA福島さくらいわき梨選果場において、新たに梨栽培を希望する方や関心のある方等11名の参加のもと、日本なし新規栽培セミナーが開催されました。

本セミナーは、いわきの梨産地活性化に不可欠な担い手を育成・確保するため、農林事務所をはじめ、関係機関・団体から、梨栽培の魅力や栽培技術、就農に向けた支援体制等を紹介しました。

さらに、小川町の園地において、先代から引き継い



(現地研修)

で2年目の園主から梨栽培の魅力や栽培管理方法で苦労されたことなどをお話しいただきました。

参加者からは、「就農するにあたっては不安があったが、栽培を始めて間もない生産者の意見を参考に、一つずつ不安を解消したい」との意見がありました。

農林事務所では、本セミナー参加者を始め新たな担い手を、関係機関と連携しながらしっかりとサポートし、産地の維持発展を支援していきます。

(農業振興普及部)

## 「福島海プロジェクト2016」にいわき市漁協漁業者が参加しました

11月5日(土)、6日(日)の2日間、漁青連いわき方部会が東京海洋大学海鷹祭(うみたかさい)(11月4日(金)~6日(日))に参加し、ホッキの酒蒸しの提供と試験操業のPRチラシの配布を行いました。ホッキの酒蒸しは16回に分けて提供しましたが、毎回長蛇の列ができ、あっという間に計2,000食を配り終わってしまいました。試食者からは美味しいとの感想を頂きましたが、都心における県産ホッキの認知度は低く、PRの重要性を感じました。

一方で、4年間継続して試食を続けてきたため、リピーターができ、県産ホッキを買いたいという方も多く来場されました。このようなことから海鷹祭はPRの貴重な機会となっています。

11月6日(日)には、「福島海プロジェクト2016」が開催され、いわき市漁業協同組合各支所の青壮年部長6名がワークショップに参加しました。「常磐ものが帰ってきた!」というタイトルで、前半は原発事故の影響や福島県漁業の現状について、海洋大学や水産試験場、水産事務所から話題提供し、後半は若手漁業者2名が登壇し、漁業の現状や今後の意気込みをお話し頂きました。普段聞く機会の少ない漁業者の話は、一般参加者や大学関係者にとって大変興味深かった様で、次年度からは漁業者の話をメインに福島県漁業の現状を紹介していくことになりました。

(水産事務所)



(試食提供の様子)



(ワークショップの様子)

## いわき農業普及推進懇談会を開催しました

11月7日（月）、県いわき合同庁舎において、平成28年度第1回いわき農業普及推進懇談会を開催しました。

本懇談会は普及指導活動等に対し、いわき市、JA福島さくらいわき地区本部等の関係機関、普及指導協力員及び農業担い手組織代表より意見・要望を聞き、今後の普及指導活動に反映させるため年2回開催しています。

今回は、今年度上半期の普及指導活動実績について説明を行い、担い手の育成確保の課題及び園芸産地の振興課題、鳥獣害対策を重点的に説明し、出席者の方々と意見交換を行いました。出席者からは、農地集積を進める中で認定農業者が増えてきていること、高齢化が進んでいる中で販売面では数量を如何に確保するかが課題であることなどの意見・要望が出されました。

農家の担い手が減少している中、担い手の確保及び育成は重要な課題であり、連携活動を今後も強化していきます。また鳥獣被害対策については、被害軽減のためには集落ぐるみでの対策を行う必要性を再認識しました。今回出された意見・要望は、下半期の普及活動に反映させていきます。

（農業振興普及部）



（懇談会の様子）



（懇談会で発表された課題内容）

## 第1回ふくしま農業女子ネットワーク現地研修会が開催されました



（熱心に研修を受けるネットワーク会員）

11月7日（月）、県内各地から集まった農業女子13名が、資質向上や会員相互の交流を目的として6次化の先進事例やネットワーク会員の取組についての研修を行いました。ネットワークには、野菜や果樹の生産者であったり、新規就農者やベテランであったりと、様々な方が参画しています。

当日は、（株）JRとまとランドいわきファームと（株）ワンダーファームにおいて、元木社長よ



(JRとまとランドいわきファームでの研修の様子)

り6次化への取組やトマトの栽培・管理方法、加工施設の衛生管理などを学ぶとともに、好間町の大和田自然農園において、園主よりブランド米として販売する「久保姫の舞」やブルーベリー農園の運営、加工品などの取組についてお話を伺いました。研修会では熱心に質問する姿がみられ、会員間の会話もはずみ交流も深まりました。

なお、「ふくしま農業女子ネットワーク」は、会員相互の交流・連携を促進し活躍の周知や若手女性の増加、女性目線の取組を進めるため平成28年7月に発足しました。随時会員も募集しています。

(農業振興普及部)

## 「苗木のホームステイ」スタートセレモニーが行われました

11月14日(月)、県内の出先機関で初めてとなる「苗木のホームステイ」スタートセレモニーが行われました。

「苗木のホームステイ」は、県民参加の全国植樹祭を開催する大会会場等で植樹する苗木を県民ボランティアにより家庭・職場で育てていただくものです。

今回、いわき管内では22件の応募があり、応募いただいた皆様を代表して、志賀塗装株式会社と磐城林業協同組合に森口所長よりクロマツとアカマツの苗木が手渡されました。

苗木を受け取った志賀塗装株式会社の志賀会長と磐城林業協同組合の生田目副理事長からは、「この苗木を全国植樹祭で皆様に植えてもらえるよう大事に育てます」との言葉をいただきました。

なお、いわき地区以外の県内各地においても、順次スタートセレモニーが行われます。

(森林林業部)



(志賀塗装(株)(左・中)森口所長(右))



(磐城林業(協)(左・中)森口所長(右))

## 「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム」が開催されました



(シンポジウムの様子)

11月5日(土)、いわき市生涯学習プラザにおいて、林野庁主催の「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム」が開催されました。

このシンポジウムは、原発事故による放射性物質の影響を受けている森林・林業の再生を図るため、林野庁等が取り組んでいる森林内の放射性物質の動態調査や実証などで得られた知見や成果を、関係者等に幅広く報告するため開催されたものです。

当日は、国で把握している森林・木材の放射性物質の現状と今後の見通しや、素材生産や木材利用、原木

椎茸生産の実践者から報告があり、県内外から約100人が参加しました。

木材利用の報告では、いわき市遠野町で木質バイオマス燃料等の生産を行っている遠野興産(株)の中野社長から震災・原発事故以降の復旧・復興のため取り組んできた内容が紹介されました。出席者は、森林・林業再生の実践者からの具体的な報告に、少しでも参考にしたいと熱心に耳を傾けていました。

(森林林業部)

## いわき地域特定家畜伝染病防疫演習を開催しました

11月18日(金)、いわき市民プール棟において、防疫演習を開催しました。この演習は、高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病発生の際、迅速なまん延防止措置を講じるため、初動防疫における各機関の役割や防疫作業等の確認を目的として開催したものです。

演習には生産者をはじめ、いわき市、農業関係団体、警察署、隣県及び関係者など80名が参加し、消毒ポイントにおける車両誘導・消毒作業、地方対策本部スタッフの集合施設における支援業務を確認するとともに、防疫作業員の防護服着脱、捕鳥等といった実際の防疫作業について体験を行いました。

既に新潟県や青森県では、家きんから高病原性鳥インフルエンザが確認されており、本県への侵入リスクはますます高まっております。

今後、農林事務所と家畜保健衛生所が協力して畜産農家の飼養管理状況の確認を行いながら、野鳥やねずみ等の野生動物の侵入防止対策を指導してまいります。

(農業振興普及部)



(防疫演習の概要説明の様子)



(ケージから鶏の取り出し作業の様子)



## その他

### 補助事業の中間指導について

いわき農林事務所では、補助事業の適正執行が図られるよう、実施期間中に補助事業者に対して適正な指導、助言を行う中間指導を実施しています。

原則として全事業を対象とし、事業担当部と総務部が合同で実施しています。この中間指導では、事業の成果物確認や領収書等証拠書類の原本確認のほか、交付決定の内容どおりに実施しているか確認しており、この中間指導を強化することにより、実績報告時における書類審査を迅速に完了させるとともに、補助事業の適正な執行を図りたいと考えています。(総務部)

## お知らせ

### いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果について

#### 農林畜産物の検査結果

福島県が行った、いわき地方の10月の農林畜産物の放射性物質モニタリング検査結果(表1)をお知らせします。

検査した14品目29検体のうち、13品目26検体において、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は(表2)のとおりです。

なお、ユズについては、3検体に100Bq/kg以下の放射性セシウムが検出されました。内訳は(表3)のとおりです。

10月末現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、(表4)のとおりです。

(企画部)

(表1) 農林畜産物の検査結果(10月末現在)

1点も検出されなかった品目と検体数	検体の一部が検出された品目と検体数			計
13品目	1品目(ユズ)			14品目
	検出限界値以下の検体	基準値内で検出された検体	基準値超で検出された検体	
26検体	0検体	3検体	0検体	29検体

(表2) 1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

ネギ1、サトイモ1、ニンジン1、カボス1、秋そば1、スタチ1、クリ3、菌床しいたけ(施設)5、エリンギ(施設)1、菌床なめこ(施設)2、原木ひらたけ(施設)1、牛肉3、原乳5

(表3) 基準値内で検出された品目と検体数

品目	検体数	内訳	
		100Bq/kg以下	検出限界値以下
ユズ	3	3 (3.2~23Bq/kg)	0

(表4) 出荷制限および出荷自粛品目(10月末現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	野菜・根菜・芋類	—
	果物	—
	穀類	—
	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらのめ(野生のものに限る)、わらび、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
	畜産物	—
出荷自粛	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

## □平成28年産米の全量全袋検査結果

平成28年産米の全袋検査は、10月までの検査点数364,311点のうち、99.99%の364,275点(275点)が測定機器の測定下限値未満、36点が基準値内で検出が確認されましたが、基準値を超過したものはありませんでした。

(表) 玄米(平成28年産)検査状況(10月末現在)

測定値区分 (単位: Bq/kg)	測定下限値 未満(<25)	25 ? 50	51 ? 75	76 ? 100	100 以上	計
検査点数 (点)	364,275	36	0	0	0	364,311
割合 (%)	99.99	0.01	0.00	0.00	0.00	100.00

(11月1日付け 「ふくしまの恵み安全対策協議会」HPにより確認)

調査結果は、「ふくしまの恵み安全対策協議会」放射性物質検査情報で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

(企画部)

## □海産魚介類の検査結果

福島県沖で採取された海産魚介類の放射性セシウム濃度は、時間の経過とともに着実に低下しています。

平成28年10月の水産物モニタリング検査では、777検体の魚介類を検査し、放射性セシウムとしての基準値(100Bq/kg)を超えたものはありませんでした。

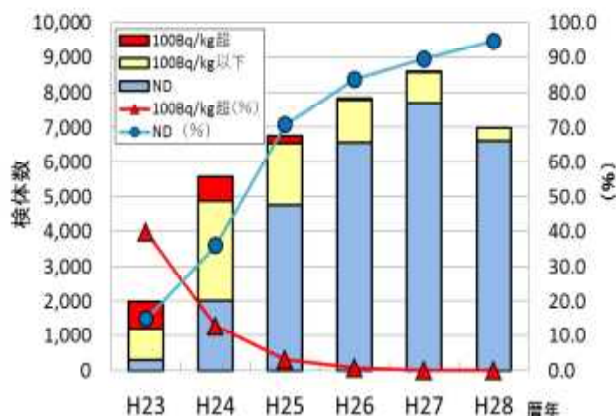
海産魚介類では平成27年4月以降、基準値を超えたものはありません。平成27年7月以降、モニタリング検査で放射性セシウムの不検出割合が9割を超え、平成28年10月末では不検出割合が94.7%となっています。

(水産事務所)

(表・グラフ) 平成23年以降のモニタリング検体数と放射性セシウム検出の割合

年		100Bq/kg超	100Bq/kg以下	不検出	計
H23	検体数	785	893	294	1,972
	割合 (%)	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合 (%)	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合 (%)	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,387	7,260	8,722
	割合 (%)	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	896	7,677	8,577
	割合 (%)	0.05	10.4	89.5	100.0
H28	検体数	0	369	6,621	6,990
	割合 (%)	0.00	5.3	94.7	100.0

H28.10.31現在



採取月日で集計

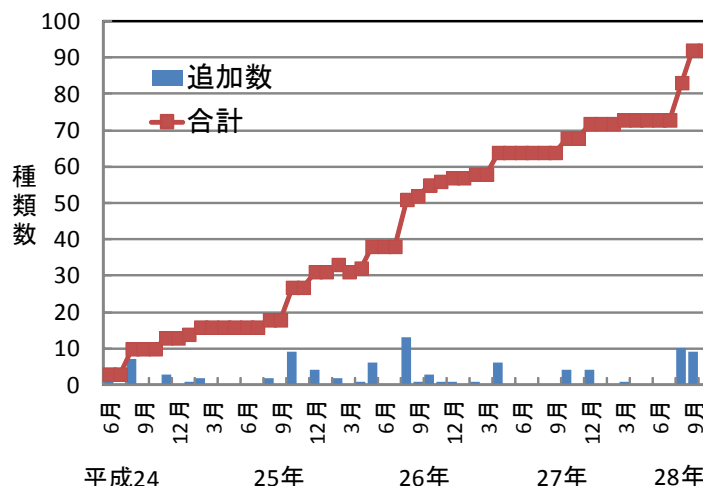
## □試験操業の状況

10月25日(火)に開催された県下漁業協同組合長会議で、相双地区の釣り試験操業計画が承認されました。

10月末現在の試験操業の漁業種類は11種類で、アオノリ養殖を除き、ほぼ震災前に回復しました。また、試験操業で漁獲する魚種数は92種類まで増加しています。

しかし、依然として15種の魚介類に出荷制限指示が出されています。

(グラフ) 試験操業の対象種の推移



(水産事務所)

## 「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に掲載された6次化商品をご紹介します

今回は“ふくしま地域産業6次化新商品カタログ”(平成28年3月版)に掲載されている商品の中からイタリアンレストランterrazza(食・ネットワーク株)の「女性シェフがつくるバーニャカウダソース」をご紹介します。

「女性シェフがつくるバーニャカウダソース」は、いわき市産ニンニクを100%使用して作った上質な商品です。

イタリアンレストランterrazzaでは、以前からいわき市産農産物を活用したパンやパスタ等を開発していましたが、6次化交流会で知り合った農家の方々が作られた美味しい野菜を活かせるような商品を開発したいとの思いから、市内の製造業者と協力し、バーニャカウダソースの開発に取り



組まれたそうです。

開発にあたっては、素材の味を活かせるよう添加物は使用せず、また、お店で食べたときと瓶詰めにしたときの味の違いをなくすよう試作を繰り返したそうです。

そのまま野菜につけても美味しくいただけますが、焼いた魚や肉にかけたり、ポテトサラダの仕上げなど多様な使い方が出来る一品となっております。ぜひご賞味ください。

【お問い合わせ】

イタリアンレストランterrazza(食・ネットワーク㈱)

●いわき市中央台高久1-13-3 ●TEL.0246-29-8810

●[http://www.gurutto-iwaki.com/detail/index\\_950.html](http://www.gurutto-iwaki.com/detail/index_950.html)

## 食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日(12月は8日(木)、18日(日)、28日(水))に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。

なお、店舗の都合により内容は変更される場合がありますのでご了承ください。

### ○ 北の屋そばや

地産地消メニュー：鶏ごぼうそば・うどん、カレー南蛮そば・うどん、なべやきうどん

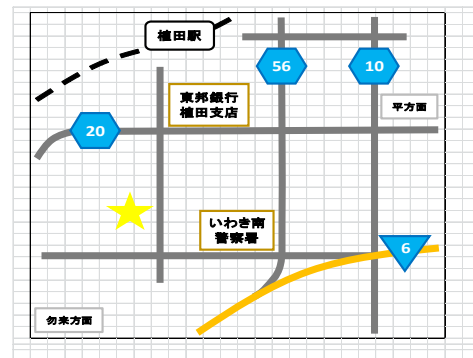
説明：提供する料理にはいわきの秋野菜(ごぼう、長ネギ、ホウレンソウ等)をできるだけ多く使用しています。

店舗からの情報：12月31日(大晦日)には、『年越しそば』を提供します。

《連絡先》住所：植田町本町1-10-1 電話番号：0246-62-4752



(なべやきうどん)



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。  
 福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課  
 〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地  
 (県いわき合同庁舎 3階)  
 T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196  
 U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース